# 認知症ケアセンターの取り組み

認知症看護認定看護師 松藤 香織
認知症ケアセンター長 増田 大作

## ■はじめに

2022年10月1日現在の日本の高齢化率は29％と発表されました。超高齢社会となってから15年以上経ちますが、日本の高齢化率は上昇を続けています。超高齢化が進むと切り離せない問題の一つが認知症です。認知症の有病率は加齢とともに高まり、65歳以上の約16％、80歳代後半であれば男性の35％・女性の44％、95歳を過ぎると男性の51％・女性の84％が認知症であることが明らかにされています。すなわち、当院で入院・治療を受けている患者さんの多くもすでに認知症がある、または認知症予備軍と考えられます。しかし、実際に診断を受けておられる方は少なく、入院して家族と離れ、慣れない環境で入院生活を送ることで認知機能の低下が明らかとなることもあります。そして、認知機能の低下があってもなくても身体状況が悪化して入院を余儀なくされるような状況の高齢者に多く発症するのが、せん妄です。せん妄は高齢・認知症や脳の疾患などを背景として急激な環境の変化や病状の変化などにより誰にでも起こりうるものです。しかし、当院のような急性期病院では身体疾患の治療が最優先され、認知症やせん妄に気づくのが遅れる、何かしら問題が発生してから慌てて対応することになってしまいがちであるという問題がありました。

## ■認知症ケアチームは、入院中の患者さんの認知症やせん妄ケアに多職種で対応します

当院には「認知症ケアチーム」があり、認知症サポート医、認知症看護認定看護師、薬剤師、作業療法士、ソーシャルワーカーなどの多職種で構成されています。チームとして院内の一般病棟を対象に、認知症やせん妄の患者さんについて病棟看護師とカンファレンスを行い、患者さんの困りごとの解決やより適切な介入がなされるように病棟看護師と共に取り組んでいます。認知症ケアチームの回診では、認知症サポート医は身体的側面が整っているのかを中心に、薬剤師はせん妄増悪に繋がるような薬剤が投与されていないか、また薬剤使用のアドバイスを行い、作業療法士はリハビリテーションの進捗状況や認知機能のスクリーニングと結果に基づいたアドバイス、認定看護師は病棟からの困りごとを整理しケアの方向性についてなど、それぞれの職種の役割を明確にし、患者さんを多角的に捉えてケアに繋げていけるよう努めています。

▲せん妄ケアマニュアル
「せん妄をご存じですか？」

## ■ご家族にせん妄を知ってもらうためせん妄に関するパンフレットを作成しました

やや興奮気味に辻褄の合わないことを言い、点滴や身体に挿入されているチューブ類を引っ張り、こちらの言うことを聞いてくれないといったような家族を目の前に、「突然、認知症になってしまったんじゃないか」と驚かれた経験がある方もおられるのではないでしょうか。私たち医療者はせん妄について知っていますが、ご存知ないご家族の方には大きな不安を抱かせるものです。そこで、ご家族の方にもせん妄について知っていただけるよう、説明の際に活用できるツールの一つとして「せん妄をご存知ですか」というタイトルをつけたせん妄に関するパンフレットを作成しました。

**ご寄附のお願い**
*りんくう総合医療センター*

りんくう総合医療センターでは、皆様に安全で安心な生活をお過ごしいただけるよう地域の医療を守っています。当院の運営にご理解いただき、ご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

●泉佐野市ふるさと納税を活用した応援寄附金も募集しております。
泉佐野市ふるさと納税からのご寄附の際、寄附の使途として「メディカルプロジェクト（医療環境整備）」を選択していただくと、寄附金の一部がりんくう総合医療センターの病院運営に活用される仕組みとなっております。ぜひ、泉佐野市のふるさと納税をご活用いただき、当センターを応援してくださいますよう、よろしくお願いいたします。

QRコード
詳しくは当院webサイトをご覧ください。



せん妄になってしまったら、実際どのようなケアが行われているのか具体的に説明を受ける機会も少ないと感じていましたので、医療者がどのようなことを行うのか流れについても記載しました。入院されている患者さん本人やご家族にせん妄を知ってもらうことで、大切な家族の急な変化に驚かないよう、一緒にせん妄への対処ができるようにこのパンフレットを使ってお伝えすることができればと考えています。

## ■せん妄への適切なケアが行えるよう、せん妄ケアマニュアルを作成・活用しています

認知症ケア回診をすすめていくうえで、最も多い相談がせん妄対策に関するものです。病棟看護師からは、「せん妄に気づいたが対処できない」「薬は何を使えばいいの」「認知症とせん妄の区別がつかない」といったような困りごとが相談として挙がってきます。患者さんのせん妄発症と認知症ケア回診のタイミングが合えばいいのですが、なかなかそうもいきません。そこで、回診とタイミングが合わなくても参考にできるものがあれば、早期にせん妄ケアが実践できるのではないかと考え、それぞれの職種が意見を出し合い幾度も話し合いをして改訂を行いました。特に病棟から相談の多い薬剤について大きく変更しました。不穏を落ち着けるためとはいえ、抗精神病薬を使用する際には、この薬でいいのだろうかと不安を感じる看護師も多いと考えます。薬剤を使用すること自体は悪いことではありません。しかし、その薬剤がどのような効果をもたらしてくれるのか、またどのような副作用があるのかを知り適切に使用することが求められます。そこで今回のマニュアルでは、院内採用されている薬剤について、使用時にチェックできるような項目を作り、どのように対応すればよいのかを確認できるようにしました。そうすることで、あらかじめ主治医との相談にも使えますし、自身が投薬する際にも確認ができ、より安全に薬剤を使用できるようになっています。

せん妄は第一に予防ケア、次に重症化予防と可能な限り遷延しないようケアを提供していくことが大切だと言われています。しかしこれらのケアは一度実践しただけでは効果はみえません。このようになかなか成果としては見えにくいケアを多職種で話し合い、生活リズムの構築やせん妄離脱に向けたケアを継続していくことが、結果として一番の近道になるのではないかと考えています。このせん妄ケアマニュアルがその一助となればと考えています。

▲認知症ケアチーム

せん妄は認知症とは違い、多くの方が治療により回復します。
いつもと違うご家族の様子に戸惑われることがあるかと思います。
そのような時は１人で抱え込まずに、医療者にご相談下さい。
ご家族が、１日も早くせん妄から回復できるよう一緒に考えていきましょう。

## ■おわりに

高齢化が進むということは認知症者数の増加に繋がります。認知症はせん妄のリスク因子の一つであり、高い確率でせん妄を発症します。せん妄を発症した認知症高齢者は、認知機能の低下が加速すると言われていますし、新たな認知症発症につながるリスクも高めてしまいます。認知症とせん妄は切っても切れない関係にあるのです。

今年に入ってからアルツハイマー病の新薬の承認申請が行われていますし、6月には認知症基本法が参議院で全会一致での可決となりました。今年は認知症にとって追い風が吹いていると感じています。

当院の認知症ケアチームも目の前の患者さんのケアを病棟スタッフと一緒に検討しながら、せん妄・認知症と丁寧に向き合っていきたいと考えています。

**泉州広域母子医療センター**
Sensyu Regional Medical Center for Women's and Children's Health

●周産期センター（産科・小児科）
平成20年4月より、りんくう総合医療センター産婦人科と市立貝塚病院産婦人科はひとつの組織として統合されました。りんくう総合医療センターは「周産期センター」として 泉州地域の産婦人科医療を担う拠点病院として運用しています。

QRコード
詳しくはwebサイトをご覧ください。